

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 島根県 】

学校名【 益田市立美都中学校 】

1 実践テーマ	II・IV
2 実施対象者 (学年・人数)	全校生徒 27名 アイルランドパラリンピック自転車競技選手団13名 市職員等7名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (がんばれ!アイルランドパラリンピック 自転車選手団!) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○パラリンピック選手との交流を通して、パラリンピック自転車競技について学ぶとともに、ホストタウンとしてのおもてなしの心を育て、学校全体でパラリンピックへの機運を高める。
5 取組内容	○益田市はアイルランド(自転車競技)のホストタウンとして登録されていることから、トレーニングキャンプ中のアイルランドパラリンピック選手団と競技用の「パラサイクル」を使って交流した。    

	<p>○選手団の歓迎に合わせ、美都町の魅力（秦佐八郎博士、柴犬「石号」、ゆず、石見神楽、祭り、蛍など）を英語で紹介したり、選手一人一人に応援メッセージカードを英語で書いて渡したりするなど、ホストタウンとしての「おもてなし」をした。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>○ハンドバイクやタンデム自転車に試乗したり、選手から練習やパラリンピックへの思いを聞いたりすることで、生徒は競技の難しさを体感し、障害への理解を深めていった。「パラリンピック選手はつらいこと、大変なことを乗り越えて自転車競技と向き合っているんだと感じた。自分の心を強くもつことが大切だと学んだので、私も勉強も部活も真剣に取り組みたいと思う。」といった感想があった。</p> <p>○実際にリオの金・銀メダルと世界選手権の金メダルを見せてもらったことは、大変貴重な体験だった。「本物」のもつ力がパラリンピックへの興味、関心を高めることにつながった。</p> <p>○ホストタウンとしてのおもてなしの内容を考え、準備、練習をする過程で生徒の考えも深まっていった。</p>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>○ホストタウンとして益田市民として、「自分たちにできることはたくさんある、自分たち若い世代にこそ重要な役割がある」と気づかせることに力を入れ、活動内容を考えた。</p> <p>○関連した活動として、「益田市I・NA・KAライド」（自転車ロードレース大会）には全校でボランティア・スタッフとして参加し、エイドステーションで選手に声援を送った。</p> 
<p>8主な課題等</p>	<p>○学校のねらいを達成させるためにも、市の担当者や大会主催者等との打合せを密にしておくことが必要である。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○益田市のホストタウンとして動きに注目し、益田市「自転車によるまちづくりの実現」の取組に協力し、自転車競技を盛り上げる。</p> <p>○地域でのイベントやボランティア活動への積極的な参加を促す。</p>